

2012 年第 110 号
(2012.12.5)

年末年始(2012 年 12 月 23 日～2013 年 1 月 3 日)の旅行動向

総旅行人数は 6 年ぶりに 3,000 万人台へ

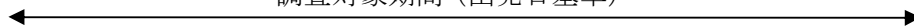
国内旅行人数 2,937.1 万人 (前年比 +1.3%)

海外旅行人数 65.7 万人 (前年比 +0.3%)

- 海外旅行人数は過去 2 番目の高水準
- 曜日配列に恵まれ、国内・海外とも長距離方面の旅行が増加

12/22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3	4	5	6
土	祝	振	火	水	木	金	土	日	月	祝	水	木	金	土	日

調査対象期間 (出発日基準)



JTBは、「年末年始<12月23日(祝)～1月3日(木)の12日間(出発日基準)>に、1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向の見通しをまとめました。

この調査は、航空会社予約状況、業界動向、JTB グループの販売状況、1,200 人へのアンケートから推計したものです。1969 年に調査を開始して以来、今年で 44 回目となります。

調査結果は以下の通りです。

表 1 推計	2012/2013 年 年末年始	前年比	2011/2012 年 年末年始
総旅行人数(延べ)	3,002.8 万人	+1.3%	2,964.9 万人
国内旅行人数	2,937.1 万人	+1.3%	2,899.4 万人
海外旅行人数	65.7 万人	+0.3%	65.5 万人
国内旅行平均費用	30,800 円	+0.4%	30,670 円
海外旅行平均費用	207,000 円	+2.6%	201,800 円
総旅行消費額	1 兆 406 億円	+1.9%	1 兆 214 億円
国内旅行	9,046 億円	+1.7%	8,892 億円
海外旅行	1,360 億円	+2.9%	1,322 億円
平均旅行日数	3.8 日	+0.2 日	3.6 日

- * 旅行人数は延べ人数。平均費用は一人1回あたりの費用
- * 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)
- * 海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)
- * 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- * 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ、旅行先での交通費・宿泊費・食費を含む

＜年末年始の旅行の特徴＞

※()内の数値は前年比

1月4日を休めば9連休も可能、長距離方面への旅行や旅行日数が増加

今年の年末年始の一般的な休みは、12月29日(土)～1月3日(木)の6日間となり、1月4日(金)を休めば9連休が可能となります。旅行日数、出発日や帰国日、旅行先など旅行の選択肢が広がるため、近場の旅行だけではなく連続休暇を利用した長距離方面の旅行も増える見通しとなっています。総旅行人数は3,002.8万人(前年比+1.3%)となり、6年ぶりに3,000万人台となる見込みです。

＜海外旅行の特徴＞

長期の休みで出発日は分散傾向、12/29～1/3にかけて出国ラッシュが続く

今年の年末年始は9連休も可能な日並びの良さや、引き続き円高基調であることを背景に、ヨーロッパやアメリカ本土など長距離方面の旅行が増えており、前年比で10%以上伸びる見通しとなっています(表4)。

海外旅行全体では、出発日のピークは12/29、12/30となりますが、年末の12/29から年始の1/3にかけて出国ラッシュが続くことが予想されます。一方で、帰国日のピークは1/3、1/6となり、1/4～1/5に帰国する人も増えそうです。

JTBの海外パッケージツアー「ルックJTB」の予約状況を見ると、ヨーロッパやアメリカ方面への旅行は12/29発が最も多く、次いで12/28発となっています。一方、近場のグアム・サイパン方面では12/29発に次いで1/2発が多くなっており、新年になってから出かけて1/5～1/6に帰国する人も多いと見込まれます。

海外旅行人数は過去2番目に多くなる見通し

海外旅行人数は、過去最高を記録した1996-1997年(68.4万人)(表15)次いで2番目となる65.7万人になる見通しです。長距離方面の旅行者比率が高まるため、海外旅行平均費用は前年比2.6%増の207,000円になる見込みです(表1)。

近隣への旅行は減少も、欧州、アメリカ、東南アジア方面が人気

方面別では、長期の休みを利用したヨーロッパ、アメリカ方面の人気が高く、またハワイや東南アジアなども人気を集めています。

ヨーロッパ方面では、ルックJTBの売れ筋コースをみると、イタリアやスペインの1カ国周遊コースが人気の他、ロンドン、パリのフリー型プランが前年比2～3倍に伸びており、円高で買い物を楽しむ人が多いと見られます。また一般的に2012、2013年はオーロラの当たり年と言われており、フィンランドやアラスカでオーロラを鑑賞するコースが例年以上に人気です。

アメリカ方面では、ニューヨークやラスベガスの予約が多く、ルックJTBでは12/29～12/31出発の予約が前年比2倍を超えることから、ニューイヤーのカウントダウンを現地で楽しむ人が多いようです。

東南アジアでは、洪水被害から回復したタイ、マリーナ地区が人気のシンガポール、羽田線就航により座席供給量が増えたバリ島などの旅行者も昨年を大きく上回ることが予測されます。一方で、中国、韓国、香港への旅行者は昨年より減少する見込みです。

表2 為替レート(東京外国為替相場/T.T.S 三菱東京UFJ銀行調べ)

	100韓国ウォン	1 香港ドル	1 台湾ドル	1 中国元	1 米国ドル	1 ユーロ
11年11月25日(金)	6.90	10.35	2.54	12.57	78.36	104.54
12年11月26日(月)	7.83	11.09	2.83	13.58	83.63	108.62

表3 燃油サーチャージ (日本航空の場合) 往復

航空券発券日	韓国	中国・香港・台湾	グアム	ハワイ	タイ・マレーシア・シンガポール	北米・欧州・オセアニア
11年10月～12月1月	5,000	14,000	16,000	32,000	26,000	50,000
12年10月～11月	4,000	11,000	13,000	27,000	21,000	42,000
12年12月～13年1月	5,000	13,000	16,000	33,000	26,000	52,000

<国内旅行の特徴>

長期の休みを利用して3泊以上の旅行が増加

アンケートによると、昨年よりも3泊以上の宿泊をする人が増えそうです。国内旅行の旅行日数は1泊2日(32.7%、前年比▲2.2%)、2泊3日(27.3%、同▲1.8%)が多いものの、全体に占める比率はいずれも減少しており、平均旅行日数は昨年より0.2日程度の増加となります(表10)。

出発日のピークは12月29日(土)、31日(月)、帰着日は1月3日(木)、6日(日)

アンケートによる旅行の出発日は12/29発(前年比+3.5%)と12/31発(同▲5.6%)が16.1%で最も多く、12/30発(14.4%、同▲4.8%)がこれに次いでいます。昨年は12/30、12/31に出発日が集中しましたが、今年は12/29～1/2の5日間に出发日のピークが分散しています(表12)。また、旅行代金が比較的安くなる1/3以降に出発する人も多く、帰着日のピークは1/2～1/3と1/5～1/6に分散します。

北海道、九州、沖縄のほか、2013年に式年遷宮を迎える伊勢神宮が人気

方面別では、長期の休みを利用して沖縄や九州、北海道など長距離方面への旅行者が増加する見込みです。また、開業後初の年末年始を迎える東京スカイツリー®や、改装を終えた東京駅周辺を中心に都心のホテルはクリスマスから年末年始にかけて人気を集めています。

2013年に式年遷宮を迎える伊勢神宮では、正月の参拝客が増える見通しで、12/31～年明けまで三重県・鳥羽、賢島、長島地区の温泉施設などの予約が前年を大きく上回っています。

東北地方では、2013年の大河ドラマの舞台である福島県会津の奥座敷・東山温泉や、土湯、磐梯熱海の予約が堅調であることから、現地を旅行することで震災復興を応援しようという動きが続いています。

また、国内線LCC就航後初の年末年始となりますが、LCCを利用した帰省や旅行という新たな動きがみられます。

普段なかなか一緒にの時間をとれない人との旅行が増加

アンケートによると、旅行の同行者は「子供連れ」(前年比▲4.8%)、「夫婦のみ」(同▲5.4%)が昨年より減少する一方で、「三世代など」(同+3.8%)、「友人・知人」(同+0.4%)との旅行が増加する見込みです(表 7)。

また旅行目的では「実家で過ごすため」36.0%(同▲4.4%)が昨年より減っているものの、「家族や友人と一緒に過ごす」40.4%(同+3.9%)が増えており、昨年から引き続き「絆」を大切にする傾向が見られます(表 9)。

宿泊施設の意向では、「実家」45.5%(同▲4.5%)の比率が下がる一方、都市滞在や友人同士の旅行に適したホテル 27.6%(同+7.4%)など、旅館・ホテル・民宿・ペンション 43.1%(同+4.3%)が増えている(表 5)ことから、今年の年末年始は、まとまった長期の休暇を利用して、普段なかなか一緒にの時間をとれない人と旅行に出かける人が多くなる見通しです。

<調査方法>

調査地点：全国 200 地点、各層に比例配分

調査実施期間：2012 年 10 月 31 日～11 月 16 日

調査対象：全国 15 歳以上 79 歳までの男女個人

サンプル数：1,200 名(1 地点 6 名×200 地点)

調査内容：2012 年 12 月 23 日から 2013 年 1 月 3 日に実施する 1 泊以上の旅行

調査方法：専属調査員による個別訪問調査(100%回収)

表 4 年末年始(2012/12/23~2013/1/3)海外旅行人数 推計

(単位:千人)

	2012/2013	2011/2012	前年比
総数	657	655	+0.3%
アジア合計	391	413	▲5.3%
韓国	122	135	▲9.6%
中国	68	91	▲25.3%
香港	32	34	▲5.9%
台湾	50	49	+2.0%
タイ	32	25	+28.0%
シンガポール	30	26	+15.4%
インドネシア	12	11	+9.1%
マレーシア	14	12	+16.7%
その他	31	30	+3.3%
北米合計	48	44	+9.1%
米国本土	45	40	+12.5%
カナダ	4	4	±0.0%
ハワイ	56	51	+9.8%
グアム・サイパン	44	42	+4.8%
欧州合計	83	73	+13.7%
大洋州合計	26	23	+13.0%
オーストラリア	14	13	+7.7%
ニュージーランド	4	3	+33.3%
南太平洋	8	7	+14.3%
その他(中近東・アフリカ・中南米等)	9	9	±0.0%

<アンケート結果（表5）～（表14）>

表5 利用宿泊施設

（海外旅行を除く、単一回答）

	%	昨年差
旅館・ホテル・民宿・ペンション	43.1	+ 4.3
ホテル	27.6	+ 7.4
旅館	13.8	▲ 0.3
民宿・ペンション・公営施設等	1.7	▲ 2.8
実家	45.5	▲ 4.5
夫や妻の実家	37.1	▲ 6.8
単身赴任で家に戻る	0.6	▲ 0.4
独身で親元に戻る	7.8	+ 2.7
友人・知人の家	3.4	+ 1.9
その他	6.3	▲ 0.8

表6 利用交通機関

（海外旅行を除く、複数回答）

	%	昨年差
乗用車	65.5	▲ 0.2
JR新幹線	15.1	▲ 3.1
JR在来線・私鉄	9.1	▲ 0.7
航空機	10.3	+ 0.2
長距離バス	6.9	+ 0.3
フェリー・船舶	1.0	± 0.0

表7 同行者

（単一回答）

	%	昨年差
家族連れ	65.9	▲ 6.4
子供連れ(中学生まで)	37.1	▲ 4.8
夫婦のみ	10.3	▲ 5.4
それ以外(母娘、三世代等)	18.5	+ 3.8
家族と友人・知人	7.5	+ 0.9
友人・知人	11.5	+ 0.4
団体(職場など)	0.6	+ 0.6
ひとり	10.1	+ 2.0

表8 旅行先

（海外旅行を除く、単一回答）

	%	昨年差
北海道	7.8	+ 0.2
東北	6.9	▲ 2.2
関東	21.6	+ 1.9
甲信越	8.3	▲ 0.3
東海	11.6	+ 0.5
北陸	1.8	▲ 0.2
近畿	11.5	▲ 2.1
中国	6.8	▲ 0.3
四国	1.9	▲ 0.6
九州	13.5	+ 0.4
沖縄	3.1	+ 1.9

表9 旅行目的

（複数回答）

	%	昨年差
① 毎年恒例なので	48.3	▲ 2.2
② 家族や友人と一緒に過ごす	40.4	+ 3.9
③ 実家で過ごすため	36.0	▲ 4.4
④ この時期しか一緒に旅行できない	14.4	+ 5.3
⑤ リゾート・温泉等でゆっくり過ごす	11.5	▲ 2.1
⑥ 正月情緒を味わう	8.0	+ 0.9
⑦ おいしいものを食べる	6.9	▲ 2.2
⑧ 自然や風景を楽しむ	5.7	▲ 2.9
⑨ この時期しか長期の旅行ができない	5.7	▲ 2.4
⑩ 家にいてもつまらない	4.6	▲ 1.5

表10 旅行日数

（海外旅行を除く、単一回答）

	%	昨年差
1泊2日	32.7	▲ 2.2
2泊3日	27.3	▲ 1.8
3泊4日	17.1	+ 1.2
4泊5日	4.7	▲ 3.8
5泊6日	8.1	+ 3.3
6泊7日	1.2	▲ 0.4
7泊8日	4.2	+ 2.6
8泊以上	3.5	▲ 0.2

注) 2回以上の旅行を予定している人は、最も遠くまで出かける旅行について質問している

表 11 今年の年末年始の旅行で去年の旅行と異なる点（複数回答）

	%	昨年差
① 親族や友人と会うために遠出する	24.2	± 0.0
② 昨年旅行できなかったのが今年旅行する	11.2	+ 5.1
③ 収入減で昨年より近距離に行く	10.8	+ 8.3
④ 収入減で昨年より日数を減らす	10.6	+ 4.5
⑤ 仕事が厳しいので昨年より日数を減らす	5.0	▲ 1.1
⑥ 来年旅行できなそうなので今年旅行する	4.3	▲ 1.3
⑦ 今年は列車や飛行機を使う	3.7	+ 1.7
⑧ 収入増で今年旅行に行く	3.1	+ 0.6
⑨ 収入増で昨年より遠距離に行く	2.5	▲ 2.5
⑩ 今年は自家用車を使う	1.9	+ 0.4
⑪ 収入増で昨年より日数を増やす	1.2	+ 0.7
⑫ 円高なので今年海外旅行に行く	1.2	+ 0.2
⑬ 燃油サーチャージが高いので国内旅行する	-	▲ 0.5
⑭ その他	32.3	+ 5.5

表 12 旅行の出発日【最も遠くへ行く旅行】
（海外旅行を除く 単一回答）

	%	昨年差
12/22(土)以前	4.6	+ 2.1
12/23(祝)	2.9	▲ 1.1
12/24(振)	4.6	+ 3.1
12/25(火)	0.6	▲ 2.9
12/26(水)	1.7	+ 0.2
12/27(木)	4.6	+ 1.1
12/28(金)	5.0	+ 1.0
12/29(土)	16.1	+ 3.5
12/30(日)	14.4	▲ 4.8
12/31(月)	16.1	▲ 5.6
1/1(祝)	9.8	+ 1.2
1/2(水)	9.8	▲ 0.8
1/3(木)	6.9	+ 1.3

表 13 旅行に行かない理由
（複数回答）

	%	昨年差
① いつも家でゆっくりしているから	51.7	▲ 0.9
② 年末年始は混雑するから	29.4	+ 2.7
③ 仕事などで休暇が取れない	20.6	+ 2.3
④ 年末年始は旅行費用が高いから	18.5	▲ 1.3
⑤ 親族が近くにいるから	14.4	▲ 2.3
⑥ 家計の制約があるから	10.9	+ 1.6
⑦ 家庭の事情で家を離れられないから	10.7	+ 1.8
⑧ なんとなく	7.4	+ 1.1
⑨ 同行者と休日が合わないから	7.1	▲ 1.5
⑩ 今後の生活が不安だから	5.1	+ 0.7
⑪ 健康上の理由で	4.2	+ 0.1
⑫ 旅行以外にやりたいことがあるから	3.3	± 0.0
⑬ ボーナスが減ったから	1.9	▲ 0.1
⑭ 燃油サーチャージ料金が安いから	0.7	新設
⑮ 自身や親族が被災したから	0.5	新設

表 14 今後1年間の旅行の支出に対する意向（調査月ベース）（ ）は前回との差

		今回 (2012/2013)	前回 (2011/2012)	前々回 (2010/2011)
支出を増やしたい		15.4 (+ 2.0)	13.4 (▲ 1.7)	10.8 (+ 2.8)
同程度	単価を減らし回数を増やす	8.8 (▲ 0.5)	9.3 (+ 1.7)	7.6 (▲ 0.9)
	単価を増やし回数を減らす	3.3 (+ 0.5)	3.3 (▲ 0.1)	3.4 (▲ 0.6)
	単価も回数も同程度	41.2 (▲ 0.4)	41.2 (+ 0.1)	41.1 (▲ 0.3)
支出を減らしたい		25.3 (▲ 0.7)	26.0 (+ 1.8)	31.8 (+ 0.9)

* アンケート結果(表 4)～(表 14)は無回答があるため単一回答でも合計 100%にはなりません。

表 15 1995 年～2013 年 年末年始(12/23～1/3)発表数値の推移

	旅行人数(万人)			一人あたりの旅行費用 (円)		総消費額 (億円)	旅行日数 (日)
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年増減
1995/1996	2,722.7	2,662.0	60.7	35,666	225,800	10,865	4.0
	101.8	101.6	109.4	95.2	98.6	98.0	+0.2
1996/1997	2,875.4	2,807.0	68.4	36,370	242,120	11,865	4.5
	105.6	105.4	112.7	102.0	107.2	109.2	+0.5
1997/1998	2,893.1	2,829.5	63.6	35,820	243,570	11,684	3.9
	100.6	100.8	93.0	98.5	100.6	98.5	▲0.6
1998/1999	2,833.2	2,770.1	63.1	34,750	224,550	11,043	3.8
	97.9	97.9	99.2	97.0	92.2	94.5	▲0.1
1999/2000	2,756.7	2,710.6	46.1	33,986	222,152	10,236	3.7
	97.3	97.9	73.1	97.8	98.9	92.7	▲0.1
2000/2001	2,988.5	2,923.0	65.5	36,766	223,284	12,209	3.5
	108.4	107.8	142.1	108.2	100.5	119.3	▲0.2
2001/2002	3,022.7	2,972.7	50.0	37,216	216,927	12,148	3.7
	101.1	101.7	76.3	101.2	97.2	99.5	+0.2
2002/2003	2,925.4	2,865.3	60.1	35,390	225,170	11,494	3.9
	96.8	96.4	120.2	95.1	103.8	94.6	+0.2
2003/2004	2,929.6	2,871.0	58.6	34,576	224,940	11,245	3.7
	100.1	100.2	97.5	97.7	99.9	97.8	▲0.2
2004/2005	2,935.8	2,873.9	61.9	34,472	195,923	11,120	3.6
	100.2	100.1	105.6	99.7	87.1	98.9	▲0.1
2005/2006	2,993.1	2,930.3	62.8	34,093	199,449	11,243	3.8
	102.0	102.0	101.5	98.9	101.8	101.1	+0.2
2006/2007	3,004.8	2,940.0	64.3	34,160	210,510	11,397	3.8
	100.4	100.3	102.4	100.2	105.5	101.4	±0.0
2007/2008	2,991.1	2,930.3	60.8	34,210	217,700	11,348	3.9
	99.5	99.7	93.8	100.1	103.4	99.6	+0.1
2008/2009	2,982.3	2,923.4	58.9	33,610	227,400	11,165	3.7
	99.7	99.8	96.9	98.2	104.5	98.4	▲0.2
2009/2010	2,915.5	2,859.2	56.3	32,330	194,400	10,338	3.6
	97.8	97.8	95.6	96.2	85.5	92.6	▲0.1
2010/2011	2,973.6	2,908.1	56.9	31,140	203,100	10,324	3.5
	102.0	101.7	101.0	96.3	104.5	99.9	▲0.1
2011/2012	2,964.9	2,899.4	65.5	30,670	201,800	10,214	3.6
	99.7	99.7	115.1	98.5	99.4	98.9	+0.1
2012/2013	3,002.8	2,937.1	65.7	30,800	207,000	10,406	3.8
	101.3	101.3	100.3	100.4	102.6	101.9	+0.2

* 調査開始は 1969 年

< 報道関係の方からの問い合わせ先 >
 J T B 広報室 03-5796-5833